



伊 佐 市
女性消防団

私たちのまち 私たちが守る

地域防災の要として、重要な役割を担う消防団。消火活動や防火・防災の啓発など、地域の安心安全を守るために活動しています。

現在、伊佐市には17分団に385人(平成29年10月1日現在)

の消防団員が在籍しており、その内14人が女性です。平成26年10月に結成された女性消防団は、一人暮らしの高齢者宅への防火訪問活動や防火啓発活動などを行っています。年齢は20～50代と

幅広く、職業は介護士・看護師・主婦・市職員などさまざまです。

自分や家族、地域のためにぜひ一緒に活動しましょう。



(全国女性消防操法大会 要員7人)



伊佐市消防団長
中越 勇さん

女性にも男性に無い視点で活躍してもらいたいとの思いで結成しました。

女性消防団の重要な活動としては、民生委員と連携した一人暮らしの高齢者宅への訪問活動がありますが、男性団員よりも気軽に話せると喜ばれており、高齢者の防火・防災への意識高揚につながっています。



女性消防団 班長
春口 章子さん

私たちの活動で、市民の皆さまの防災への意識が高まり、尊い命、平穏な日常生活を少しでも守るお手伝いができれば幸いです。

女性ならではの視点で、幼いお子様から、一人暮らしの高齢者まで、お役にたてればと思い活動しています。

活動の記録



毎月3回、民生委員の方々にご協力
いただいて一人暮らしの高齢者宅を訪問
し、防火の呼び掛けをしています。



防火クラブの幼児たちと一緒に街中を
歩き、防火を啓発する「防火パレード」
の様子です。毎年11月に開催されます。



1月に行われる出初式では、消防団の
行進や式典での賞状授与のお手伝いをし
ます。



毎月16日に定例会を開き、今後の活
動計画などを話し合います。



秋田県で開催された全国女性消防操法
大会に、県代表として初出場！結果は悔
しくも全国26位でした。



春と秋の火災予防運動では女性消防団
の広報車で市内を巡り、防火の呼び掛け
をしています。

秋も深まり、芸術・スポーツ・読書・食欲の秋などと言われて
いますが、「防火の秋」もお忘れなく。空気が乾燥し、火災の発
生するおそれが非常に高まります。そこで、女性消防団が高齢者
宅への防火訪問活動で配布している「火の用心7つのポイント」
をご紹介します！今一度、家の防火対策について見直してみましょう。

火の用心7つのポイント

- ◆家の周りに燃えやすいものを置かない
- ◆寝タバコやタバコの投げ捨てはしない
- ◆調理するときはその場を離れない
- ◆風の強いときはたき火をしない
- ◆子どもにはマッチやライターで遊ばせない
- ◆電気器具は正しく使い、タコ足配線はしない
- ◆ストーブには燃えやすいものを近づけない

秋季全国火災予防運動

期間 11月9日(木)～15日(水)

■防火セレモニー

日時 11月9日(木)

10時～11時

会場 大口ふれあいセンター
前広場

■防火パレード

大口ふれあいセンター前を10時
30分頃に出発予定

※雨天時は中止します。

女性ならではの視点を
地域の防災活動に生か
してみませんか。



団員募集 男性団員も募集中！

- 応募資格
- ❶ 伊佐市内に在住または通勤している人
 - ❷ 18歳以上（高校生は除く）
 - ❸ 健康で防災やボランティア活動に興味のある人

問い合わせ先 総務課交通消防防災係 ☎231311

没後40年——その人間性や文学の魅力を探る——

海音寺潮五郎

伊佐が生んだ偉大な歴史作家

全6回連載



第六回 「赤穂義士」を読む

——権力への抵抗——

鹿児島純心女子大学教授 古閑 章

その後、1955（昭和30）年8月、『歴史新書 赤穂義士』として鱗書房から。さらに、1968（昭和43）年12月、講談社から『赤穂義士』のタイトルで刊行された。現在、この講談社版は、講談社文庫、文春文庫に引き継がれている。

かつて鹿児島城下の三重大事と言えば、「曾我どんの傘焼き」「妙円寺詣り」「赤穂義臣伝輪読会」であった。その、赤穂義臣伝輪読会で披露される赤穂義士たちの義挙を描いた「赤穂義士」は、海音寺文学初期の代表的な史伝にほかならない。初版は、1944（昭和19）年3月、潮文閣から出版された『大石良雄』。そ

また、歴史小説の観点から、堀部安兵衛や堀部弥兵衛等の、代表的な14人の浪士の事績について書かれたものが、別途『赤穂浪士伝』上・下として文春文庫や中公文庫から刊行されている。ここで区別された義士伝と浪士伝の違いについては、前者が史伝、後者が歴史小説の範疇で、史伝が事実な記述法、歴史小説が史料に欠けた穴を想像力で補う書き方としておこう。

徳川第五代将軍・綱吉の治世（1680～1709）に起こった赤穂事件ほど、江戸時代中期以降の浄瑠璃や歌舞伎、近・現代の映画やテレビドラマ・演劇・物語・小説の類いに創作された話材はな



だちに切腹の命が下されたのに対し、上野介には何のお咎めもなかった將軍の依怙（いひき）最良が内蔵助に統率された義士たちに敵討ちを完遂させた一大事件である。すなわち、内匠頭と上野介の殿中での刃傷および直後の内匠頭の切腹という前半部と、お家再興を願う家臣たちの嘆願が幕府当局に入れられず、最終的に武士の意地を貫徹すべく吉良邸に討ち入る後半部の二側面を含んでいる。刃傷事件の発端から討ち入りまでの時間の幅は、旧暦の元禄14（1701）年3月14日～翌15（1703）年12月14日までということになる。

海音寺は、この事件を、浪士伝や義士伝の形でたびたび作品化しているが、その動機にはどのような意図が隠されているのであろうか？ 最初の稿が執筆されたのは「元禄侍気質」（『現代』昭和14・4）で、これは執筆年代から推測されるように、軍国主義の悪気流が国民全体に重くのしかかり始めた時期であった。海音寺の反骨精神はそうした状況に怯むことな

い。その簡略な見取り図を示しておく、江戸城松の廊下で、浅野内匠頭長矩が高家筆頭・吉良上野介義典に斬りつけた刃傷沙汰を発端とし、喧嘩両成敗が常道であった時代に、内匠頭がた

く、赤穂事件関連の短篇を発表し続けるのだが、1941（昭和16）年になると、軍部の圧力は元禄時代の武士気質や武士道をテーマにした作品を国民に供給する書き手や雑誌を排除する空気が濃厚になっていた。権力におもねる立場に立たない限り、作品発表の場さえ与えられない時代が到来したのである。

そういう背景を透視すると、1944（昭和19）年3月の『大石良雄』の書き下ろしは驚きである。そのなかで、海音寺は赤穂事件における大石内蔵助の行動を、時の絶大な権力者・徳川綱吉に対する果敢な挑戦と解釈している。元禄時代以前と以後の武士道の質の違いを腑分けしながら（前者は武勇、後者は主君に対する忠義）、当時の武士の美学を最大限に發揮した47士の背後に秘められた根本思想を、喧嘩両成敗の判断を誤った綱吉への抵抗の姿勢にあったと断じているのである。史実に重ねて横暴な権力者のやり方を批判した書であることは間違いなく、海音寺の気骨が並大抵でなかった一事を明かしている。

多くの日本人は、権力とは無縁の場所、まっとうに誠実に生きるしかなかったゆえに、赤穂義士の事績を民族の大口マンとして後世に語り伝えて来たのである。権力に胡座をかいた愚者を裸の王様に仕立て上げる民衆のわざも捨てたものではない。

海音寺潮五郎没後 40 年記念事業

郷土が生んだ偉大な歴史小説家「海音寺潮五郎」没後 40 年を記念して次のような記念事業を実施します。
ぜひ皆さんもこの機会に「海音寺文学」の魅力に触れてみませんか。

海音寺潮五郎記念 「海潮忌・文学フェスティバル」

日 時 11 月 26 日 (日) 12 時 30 分～

場 所 大口ふれあいセンター 3 階

参加料 無料

海潮忌

伊佐市出身の直木賞作家、海音寺潮五郎氏は昭和 52 年 12 月 1 日、76 歳で逝去。その遺徳を偲び偉業を顕彰する式典。

文学フェスティバル

海音寺潮五郎記念第 17 回「銀杏文芸賞」および「読書感想文・感想画コンクール」の表彰式、銀杏文芸賞選者である歌人伊藤一彦先生・詩人岡田哲也先生・歌人宮原望子先生による鼎談。



平成 28 年の海潮忌・文学フェスティバルの様子

海音寺潮五郎 展示会

海音寺潮五郎氏を広く紹介するために記録写真を展示します。

期 間 11 月 22 日 (水) ～ 26 日 (日)

場 所 大口ふれあいセンター 1 階

加来耕三 文化講演会

日 時 11 月 25 日 (土) 14 時開演

場 所 伊佐市文化会館大ホール

入場料 無料

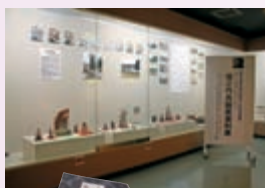
堀之内良眼房の遺品展示会

小説『二本の銀杏』の主人公のモデルとなった堀之内良眼房の遺品展示会

期 間 11 月 30 日 (木) まで

場 所 大口歴史民俗鉄道記念資料館
(大口ふれあいセンター 4 階)

入館料 無料



第 17 回「銀杏文芸賞」入賞者

短歌部門

	題名	氏名 (住所)
最優秀賞	緑のボタン	内藤 賢司 (福岡県八女市)
優秀賞	蜜柑剪定	中村 和博 (熊本県水俣市)
	配達	齊藤 敏也 (秋田県秋田市)
佳作	故郷の空	葛岡 昭男 (千葉県流山市)
	鶴日和	吉野 佳子 (熊本県八代市)
	空を見て	竹下 侑里子 (熊本県熊本市)
	夕立	田口 涼子 (鹿児島県鹿児島市)
海音寺賞	該当者なし	

エッセイ部門

	題名	氏名 (住所)
最優秀賞	供する	児島 裕美 (鹿児島県伊佐市)
優秀賞	帰巢	佐野 ふみ子 (鹿児島県鹿児島市)
	赤とんぼ	水町 登代子 (熊本県菊池郡菊陽町)
佳作	火の玉	小田 茂 (鹿児島県伊佐市)
	古傷	伊地知 順一 (鹿児島県始良市)
	正子の成人式	田代 伊津子 (鹿児島県伊佐市)
	リハビリの歩キメデス	清水 りえ (鹿児島県伊佐市)
海音寺賞	陽炎の向こうに	高橋 裕之 (鹿児島県伊佐市)

◎銀杏文芸賞入賞者の作品集を販売

定 価 1 冊 300 円 (限定 100 冊)

販売場所 授賞式会場で 11 月 26 日のみ

問い合わせ先 社会教育課文化財係 ☎ 26 1 5 5 4